

謹賀新年



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい初春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年10月の市長選挙におきましては、多くの市民の皆さまの温かいご支援を賜り、引き続き市政を担わせていただくこととなりました。改めてその責任の重さを感じるとともに、市民の皆さまのご期待に応えるべく、決意を新たにしているところでございます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症の位置付けが「5類」に変更となったことで、さまざまな制限が解除され、徐々にではございますが、以前の生活が戻ってきた年でした。3年以上に及んだコロナ禍は、市民の皆さまの健康、生活、そして命を守り抜くため、皆さまとともに闘ってきた日々でもあります。感染拡大防止にご尽力されたすべての関係者の皆さまに、改めて、深い敬意と感謝を申し上げます。

私は、市長に就任以来、すべての市民の皆さまに寄り添ったあたたかさあふれる市政の実現を目指し、本市の地域の宝を最大限に活かしながら、さまざまな政策に全力を尽くしてまいりました。

また、「オール土浦」で取り組んできた「つくばエクスプレスの土浦延伸」につきましても、昨年6月に、茨城県において接続駅を土浦駅とする方針が決定し、長年の悲願が実現に向けて大きく動き出すなど、明るい未来が見えてきております。

こうした取り組みにより、全国の自治体において急激な人口減少に歯止めをかけることが喫緊の課題となっているなかで、本市の人口は20年ぶりに増加に転じました。これからは、この好機を、土浦ならではのまちづくりにしかりと繋げていかなければならないと考えております。

コロナ収束後の新しい時代のなかで、市民の皆さまがより一層豊かに暮らしていけるよう、「子育て支援の充実」をはじめ、「医療福祉の充実」「農業、水産業の振興」「観光振興と文化の継承」「商業の活性化」「防災・減災対策の充実」といった政策方針を基本として、前例に捉われることなく、柔軟に、これまで以上に果敢にチャレンジしてまいります。

そして、誰もが土浦市を誇りに思い、希望に満ちた「わくわくするまち」を創造するために、本市の未来をしっかりと見据えながら、この1年が「夢のある、元気のある土浦」のさらなる飛躍の年となるよう、全力で取り組んでまいりますので、引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、健康で幸多き年となりますことを心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

令和6年 元旦

土浦市長

安藤真理子

